

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401277		
法人名	有限会社あつぷる		
事業所名	グループホームありあけ		
所在地	長崎県島原市有明町大三東丙470番地1		
自己評価作成日	令和 元年 8月 12日	評価結果市町村受理日	令和元年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街にあり、家庭的な雰囲気です。スタッフと利用者様の笑いの絶えない楽しいホームです。掃除、洗濯、清潔保持、環境整備が行き届いており悪臭のない快適な生活を支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島原半島北東部の海が見える駅に近い住宅地の一角に位置する当ホームは、開設から18年目を迎える。職員は地域住民の一員としてごみ集積所や公民館の清掃などに積極的に取り組み、自治会長を始めとする隣近所の方と顔が見える関係づくりを大切にしている。地域からの介護相談や地域の自衛消防組織の一員を担うなどホームへの理解に広がりを見せており、有事の際の協力体制も構築している。職員は笑顔を大切にしたい理念を家庭的な雰囲気の中で実践し、各種研修への参加や職員間での情報共有によって入居者の理解に努めている。ホームには有資格者の職員も多く、専門的な視点で関わることで入居者の心身の変化に敏感に対応でき、勤続年数の長い職員が新入職員の指導に就くことによって安定した介護の提供やチームワークの良さ、家族との信頼関係へと繋がっている。入居者への丁寧な関わりは食事や清潔感のある共用空間からも感じ取ることができ、入居者一人ひとりと時間を大事にする雰囲気が伝わるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームありあけ

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共用部分のリビングにスタッフ、利用者様が目につくところに理念を掲示し、意識づけを行っている。 また、外部研修を通して理念の大切さをスタッフが感じられるよう取り組んでいる。	ホーム玄関入り口に理念を掲示し、実践の中で勤続年数の長い職員から新入職員へ指導することで理念浸透を図っている。職員による入居者のペースを大事にした関わりや明るい声掛けによって、入居者が安心して過ごせる場所や家庭らしさを感じられる環境づくりへと繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年4回発行のホーム便りを通して、様子を伝え、週2回のごみ置き場の掃除、年2回の市民清掃への参加。近所の床屋さんに訪問カット依頼。 夏まつりの参加。地元中学生の職場体験の受け入れ等、地域との繋がりを持った取り組みを実践している。	ホームは運営推進会議を通して自治会長との繋がりを深めており、地域の清掃作業を積極的に行いながら顔が見える関係づくりを大事にしている。地域から介護相談を受けたり、地域の自衛消防組織の一員を担ったりするなど地域のホームへの理解に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、外部研修の報告や最新の認知症施策を周知。また、地域の方からの介護相談を随時受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着を大切に、利用者様や家族からの意見、要望を事業所運営に活かしている。 また、グループホームの広報誌などで活動がわかるような取り組みを行っている。	運営推進会議は地域の情報交換の場として活用し、ホームでのスナップ写真を参加者へ示しながら理解に繋げている。ホーム内のことを分かりやすく伝えられるように、今回参加者の意見を受けて職員の顔写真付きの紹介文書を作成した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の運営や介護サービスの疑問点については、担当者に積極的に尋ねるようになり、協力関係も良好。	管理者は市担当者と顔が見える関係づくりに向けて取り組んでおり、介護保険関係書類提出の際には直接窓口へ足を運ぶことで相談しやすい関係性を保っている。今年度は以前関わりがあった支所担当職員が運営推進会議へ参加していることから、行政への相談や問い合わせなど良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、職員会議で報告。施設内研修年4回実施。利用者様の訴え、要望を出る限り受け入れて拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームでは身体拘束を行わない方針を持ち、職員は入居者への声掛けや対応方法を話し合いながら心身のケアに努めている。定期的に身体拘束及び虐待に関する不適切ケアなどについて学びの機会を設けており、こういった言葉の掛け方が拘束へ繋がるのかを検討している。今回は「センサーマットをどう考えるか」を職員に問い掛け、全職員で支援の方向性を確認し日々取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内の勉強会を通して学んでいる。入浴時には特に身体外傷がないか確認し虐待が引き起こされないようにスタッフが日頃より、声をかけあいながら、ストレスを溜めないように努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一人の利用者様が日常生活自立支援事業を利用されています。金銭管理について、担当者と連携を取りながら利用者様のサポートを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時には、時間をかけ十分納得してもらえるよう配慮している。また、理解・納得を得られるよう分かりやすく説明することに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置。面会時にスタッフが家族へ積極的に声かけを行い意見や要望を伝えやすい雰囲気作りに努めている。年1回、年度末に家族会を開催し意見や要望を積極的にきいて運営に反映する機会をつくっている。	ホームは毎月ホーム便りを家族に発送し、入居者それぞれのスナップ写真を添えて暮らしぶりやホーム行事などの情報発信を行っている。面会時には看護及び介護の日誌を示しながら生活状況を説明し、家族と現状について相談しながら介護方針の理解に繋げる取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議を開催し、その場で代表者や管理者がスタッフの意見を取り入れた形で運営するよう努めている。	職員は申し送りや記録を通して入居者の状態変化やホームの出来事を把握し、ポイントとなる部分にマーカーで印をつけることで情報共有に繋がっている。会議では新たな意見や職員それぞれの意見を話し合いながら、より良い介護や働きやすい職場づくりに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフがやりがいを持って働けるよう、意見を聞き勤務状況は聞き取りや記録で把握。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスを作成しており、スタッフの力量に応じた外部研修の提案と参加支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での情報交換やネットワーク作りを盛んに行っている。外部研修の広報や運営にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困り事や要望を傾聴し、相談しやすい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの必要性や意味をわかりやすく説明し、希望と要望を傾聴とアドバイス出来るような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族からの希望や要望を踏まえ、適切なサービスを提供できるよう、担当の介護支援専門員とあらゆる可能性を考えながら初期対応を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おばあちゃんの知恵袋など暮らしに役立つ情報を教えてもらったり、掃除やシーツ交換など一人一人の利用者様のADLやIADLに応じてスタッフと一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向や要望を傾聴し、汲み取り家族に伝えたり、過ごしやすい環境を整えるうえで一緒に考え、実現できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会時にはスタッフがさりげなく会話に入り近況を伝えたり楽しい会話ができるようにしている。 自宅周辺をドライブし昔の思い出話等をしながら馴染みの場所と現在も繋がっていることを実感し安心出来るように支援している。	ホームには友人や家族の面会が多く、職員は入居者が大切にしてきた関係継続に向けて自宅に迎え入れる際と同様の心遣いに配慮しながらいつでも面会ができるよう努めている。入居者との会話の中から自宅や馴染み深い風景(海やお墓など)についての思いを知り、その方の気持ちに寄り添う支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を工夫して隣の人の話を上手に聞いてもらったりティッシュを取ってもらったり等、利用者同士がお互いに助け合っている。 関係が良くない利用者同士はスタッフが間に入りトラブルを未然に防ぎ、それぞれの話を傾聴しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のフォローとして次の介護サービスや相談を随時受付けており、外部の居宅支援事業所の紹介や提案などを支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のモニタリングの時には全スタッフに協力してもらい本人の要望や望む暮らし等の気づきや本人の思いを情報収集し、把握に努めています。 意思疎通が困難な方には御家族から情報を得るようにしている。	ホームではセンター方式という情報収集の手法を用いて「その人を中心としたケア」に取り組んでいる。職員は入居者との会話の中から背景を知り、現在の姿と気持ちを似顔絵で具現化しながらその方の共通理解に繋げている。本人の言葉や声を思い出し、家族からの情報を残すことで様々なヒントや発見に繋がり、本人がどう思っているのかを検討しながら暮らし方の希望に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族にお話を聞いたり、自宅の様子を見せてもらう等して把握に努めています。 また、これまでのサービス利用歴を外部の居宅支援事業所様より教えてもらっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や、記録にはマーカーを引く等して把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3～6カ月の短期目標を立てており更新時には担当者会議を開催してモニタリングを行っている。 本人、家族の意向に沿ったプランを立てて統一したケアに努めている。	職員は看護及び介護の日誌からの情報をもとに現状を把握し、職員間で話し合いながら介護計画の原案を作成している。家族には計画作成の経緯を原案とともに看護及び介護の日誌を示しながら説明し、入居者の課題についての理解や家族の介護方針を確認している。職員は支援内容についての本人の反応や実践できなかった理由を記録し、次回計画作成へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看介護記録にマーカーで印をつけて一目で分かりやすくして、職員間で共有できるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、透析の送迎や外泊時の送迎支援。点滴の長時間の付き添い介助など、必要な支援は柔軟に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	顔馴染みの関係を築く為に、散歩や外気浴の時に積極的に挨拶をしている。 消防団に現状を伝えて火災や防災の時に協力をお願いしている。 介護保険以外の情報も把握し家族に伝えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大切にし受診支援及び通院介助はもとより、かかりつけ医との連携をはかっています。 また、往診診療による利用者様の通院時の負担軽減にも取り組んでいる。	職員は入居者の体調変化に気を配り、日頃の様子と異なる変化が見られた際には職員全体で経過観察するとともに常勤看護師や主治医の指示を仰ぎながら体調維持に努めている。また、受診時に褥瘡創部を処置した経過(写真)やバイタルサインの変化などの記録を持参し、主治医と今後の見通しを相談しながら処置の継続や内服薬の調整を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	分からないことや、気づきはすぐにでも看護師や訪問看護師に相談してアドバイスをもらい、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院における支援では、医療機関と家族との連絡調整を行ったり、利用者様の情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族の意向を確認しており、状態の変化に応じて、その都度確認を行い、医師や職員、家族が連携をとり、安心して最後の時を迎えられるように支援している。	ホームでは入居者の体調や治療方針が変わった際に現状について主治医や家族と共有し、その時々に応じて家族の意向に沿った対応に努めている。これまでも看取りの経験があり、ホームでできることとできないことについて説明しつつケアチームの体制を整え、これまで過ごしてきた仲間や職員の声掛けを受けながらその方らしい生活の中での看取りとなるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや連絡網の整備をしている。 夜間は、夜勤者と宿直者の2名体制で急変や事故発生時対応できるように体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年4回の防災訓練を実施。年2回は夜間想定 の訓練。週に1度の防火自主点検の作成とチェックを行っている。	ホームでは併設する有料老人ホームや通所施設とともに定期的に火災訓練を実施しており、施設間の連携体制を確認しながら避難体制を整えた実効性の高い訓練を行っている。訓練には入居者の参加もあり、訓練の振り返りによる反省点や消防署からの指導を次回訓練に活かしている。今年度は市が実施する地震防災訓練(シェイクアウト訓練)への参加も予定しており、減災に向け意識を持って取り組む姿勢にある。	火災を中心とした訓練は実施されているものの、防災計画書の整備や職員間での読み合わせ及び備蓄品一覧表が未整備となっているため、ホームの現状に即した計画策定や職員の現場判断の拠りどころ、入居者の安全・安心に繋げる取り組みが望まれる。また、突発的に起こり得る災害に備えた有事の際の受け入れ先確保についても検討することが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様や家族のプライバシーの尊重。個人情報取り扱いについての説明を契約時に同意をもらい理解を得ている。一人ひとりへの性格を踏まえた言葉かけやケアを行っている。	職員は入居者が病気の影響で心身の状態が変化した際も何もできないと決めつけず、特性を理解しながら住環境を整え、その方の誇りやプライドを大事にしたケアに努めている。普段の支援の中でも常に入居者の立場に立ち返りながら関わり方を振り返り、基本的な接遇マナーを意識しながら慣れ合いの関係にならないよう職員が互いに注意し取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなメニューを取り入れたり、おやつ時には飲み物を選んでもらったりと希望に沿った物を提供するよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、食事の時間帯も各々の利用者様に合わせて提供している。また、就寝時刻や夜間の過ごし方も様々で自由に生活されています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服が着られるように入浴の準備を一緒にしたり、近所の床屋さんに訪問してもらい、好みの髪型にカットしてもらってます。居室から共用部分のリビングに出る際は、毎回スタッフが利用者様に合わせた整容を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングと台所が続いているので、料理の音を聞いたり匂いで献立を当てたりして食事を楽しくしています。食事の準備や下膳、片付けも手伝ってもらっています。	職員は入居者の心身の状態に応じて食器の重さやお膳の高さを調整し、その方の食事動作への支障を取り除きながらできるだけ自力で口に運べるよう努めている。自宅から持ち込んだ茶わんや湯飲みなど使い慣れた食器を活かしながら安心して食事が摂れるよう配慮し、できる範囲で皮むきや千切りなど、残存能力を活かしながら入居者が食事に参加できるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲が低下している方には、水分量や食事摂取量が一目で分かるようにチェック表を作成記入し、不足分は、ジュース類やおやつ等で補っている。夜間は居室にお茶を準備し、覚醒時に水分補給の声掛けを行い摂取してもらってます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアにはスタッフが付き添い、口腔内のチェックと残渣物がないかの確認。利用者様にあった歯ブラシや義歯ブラシの選定と義歯の消毒を行っている。 ※コップ類も曜日を決めて消毒		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツだった方が入所後、スタッフの介助を受けて尿器で失敗なく排泄できるようになった。	ホームはできるだけトイレでの排泄ができるよう身体機能の維持に努め、空き時間に運動器具を使用した体操を取り入れながら関節の動きや浮腫（むくみ）の悪化防止に取り組んでいる。職員は入居者それぞれの心身の状態に応じてタイミングや排泄方法に対応し、羞恥心や残存機能に配慮しながら排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人に合わせた、毎日の運動やレクリエーションを行い支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	家庭用のお風呂であり、一人一人が個浴の形でくつろげるよう入浴支援している。 利用者の状態や希望に沿って入浴日を柔軟に変えるなど対応している。	職員は入居者それぞれの入浴方法をマニュアルとして明文化し、その入浴方法を職員間で共有しながら安心して安全に入浴できるよう取り組んでいる。ホームはできるだけ寛いだ中での入浴が大切であると捉え、入浴拒否があった際には拒否の理由を探り、落ち着いた環境で入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は休みたい時に、ベッドに横になったり、ソファで居眠りやコーヒーを飲んだりとその方に適した休息をとってもらっています。 夜間は安眠できるよう居室環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理には、地域の調剤薬局の薬剤師が管理しており、内服、外用薬問わず用法や用量についてのアドバイスをもらいながら職員全体で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別のケアに努め、出来る事を活かした役割（洗濯ものたたみ、花の水かけ、炊事の手伝い）などを支援している。 気分転換には、敷地内のデイサービスに遊びに行き、一緒に行事に参加したり、社会交流をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の場所へドライブに出かけたり、外でおやつを食べながら外気浴を楽しんだりしている。また、家族と外食に出かけたりしています。	ホームは入居者の会話の中でその時期に応じた行き先を検討し、少人数に分けて行動することで買い物や季節の花の見物など柔軟に対応している。家族の申し出によって外出や外泊も随時受け入れを行いながら、馴染みの場所への散歩や自宅への帰省など自由に戸外へ出掛けることができるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持っている方が数名おり、自動販売機でジュースを買ったり、近所の店へ買い物支援を行っています。 お金を所持していない方は外出時、欲しいものがある時は家族から預かっていること伝えて、いつでも買えることを説明し安心できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望を汲み取り、電話をかけるなどの支援や手紙が届いた場合は返信の代行を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下などの共用部分の空調の管理と清潔保持を徹底。季節を感じられる花を飾ったり掲示物の定期的な入れ替えをして、生活感を感じられる取り組みを行っている。	ホームは職員の手入れによって清潔に保たれ、明るい色調の家具や作品を飾りつけながら温かな雰囲気づくりが窺える。今年度は入居者の状態に合わせて和室をフローリングに改修し、より入居者が自由に行き来できる空間を確保した。共用空間に備え付けられたソファに腰掛けながら入居者それぞれの居心地の良い場所で過ごし、自然体で生活できるよう配慮していることが窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、皆で楽しく会話したり、一人や、少人数でゆっくり過ごしたい時は、洋間で静かにゆっくり過ごせるようにリフォームをしました。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が作った作品、塗り絵や利用者様や家族との写真を壁に貼ったり、テレビの配置や御家族からのプレゼントなどを置いて居心地よく過ごせるように支援している。	居室は入居者それぞれの動線に合わせて家具を配置し、できるだけ自宅に近い環境を整えながらその方らしい暮らしが継続できるよう取り組んでいる。吐き出し窓から自宅の様子を眺めて生活する方もおり、使い慣れた手回り品に囲まれながらその方が安心して生活できるよう家族と話し合いながら居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、居室には大きく名前を書き、場所が分かるよう明確化している。必要な方には居室内にも手すりをつけ、移動範囲を広げる工夫と転倒予防にも気をつけている。廊下やリビングには移動の妨げになるような物品をおかないよう努めています。		